



STANDARD
TOKYO

2023年6月14日

各 位

上場会社名 株式会社テノックス
代表者名 代表取締役社長 佐藤 雅之
(東証スタンダード・コード1905)
問合せ先責任者 経営戦略本部長 堀切 節
(TEL 03-3455-7758)

企業価値向上の実現に向けて

当社は「基礎工事を通し社会に安全、安心を提供し、全てのステークホルダーが豊かさを実感できるサステナブルな企業を目指す」ことを長期ビジョンに掲げ、日々事業の成長と企業価値の向上に努めております。

2023年3月31日に東京証券取引所から「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関する要請がありました。これは上場企業の企業価値向上の実現に向けた意識改革を促すものであり、当社としても、ステークホルダーの期待に応える持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現しなければならないとの思いを強くしております。

このたび、企業価値向上の実現に向けた当社の取り組みを添付資料の通り整理しましたのでお知らせいたします。主に以下の4点です。

1. 当社の資本コストの把握とあるべき資本収益性

当社の資本コスト = 株主資本コスト

企業価値の源泉であるエクイティスプレッド (ROE (自己資本利益率) - 株主資本コスト) を生み出す資本収益性を確保するには、ROE 最低5%必要

↓

ROEの引き上げがPBR (株価純資産倍率) 向上の大前提

PBR 1倍を目指すためにはROEを8%以上にする必要がある

2. ROEの引き上げに向けて

主な指標の過去10年間の推移から見える課題

- ・PBRは0.4~0.6辺りの推移 → 当社の成長性に対する市場の評価は低い
- ・BPS (1株当たり純資産)は右肩上がり → 積み上がった自己資本の有効活用が不可欠
- ・ROEは直近3ヶ年5%割れ → ROEの引き上げが急務

3. ROE 引き上げの施策

① 利益増加

中期経営計画の3つの基本戦略（開発戦略、営業・施工戦略、ESG 戦略）の着実な遂行

② 将来のキャッシュを生み出す成長分野への投資拡大

- ・ M&A による既存事業の拡大、新規事業への進出
- ・ 気候変動に対応する環境関連の投資
- ・ 人的資本経営のための投資

③ 資産の有効活用

〔総資産回転率の向上〕

- ・ 資産の見える化（グループ内情報共有、DX 推進）
- ・ 資産稼働率向上

④ 株主還元政策

- ・ 安定した配当
- ・ 機動的な自己株式取得

4. ROE 引き上げと次期中期経営計画について

現中期経営計画において、最終年度である 2023 年度の ROE 目標値を 8%とじていますが、2023 年 5 月 12 日に公表した 2023 年度の業績予想では目標値達成は厳しい状況です。ROE 引き上げの施策を着実に実行し、次期中期経営計画（2024 年度～2026 年度）において ROE 8%以上に再チャレンジします。

〔次期中期経営計画期間中に目指すべき指標〕

売上高 : 240 億円以上

経常利益 : 15 億円以上

ROE : 8%以上

次期中期経営計画に関しましては、現中期経営計画の振り返りを踏まえて、来年 5 月に開示予定です。その際に、企業価値向上の実現に向けてのこれまでの取り組みを総括し、課題解決策を織り込んだ企業価値向上計画を開示いたします。

PBR向上を目指してIR活動の一層の充実に努め、支えてくれる方々のご意見を直接お聞きし、経営に反映させ持続的な成長を図ってまいります。

以上

企業価値向上の実現に向けて

2023年6月14日

株式会社 **テックス**

STANDARD TOKYO 証券コード：1905



1. 当社の資本コストの把握とあるべき資本収益性
2. ROEの引き上げに向けて
3. ROE引き上げの施策
4. ROE引き上げと次期中期経営計画について
5. IR活動の一層の充実

当社の資本コスト = 株主資本コスト ※有利子負債がほぼ無いため

企業価値の源泉であるエクイティスプレッド（ROE - 株主資本コスト）を
生み出す資本収益性の確保



ROE最低5%以上

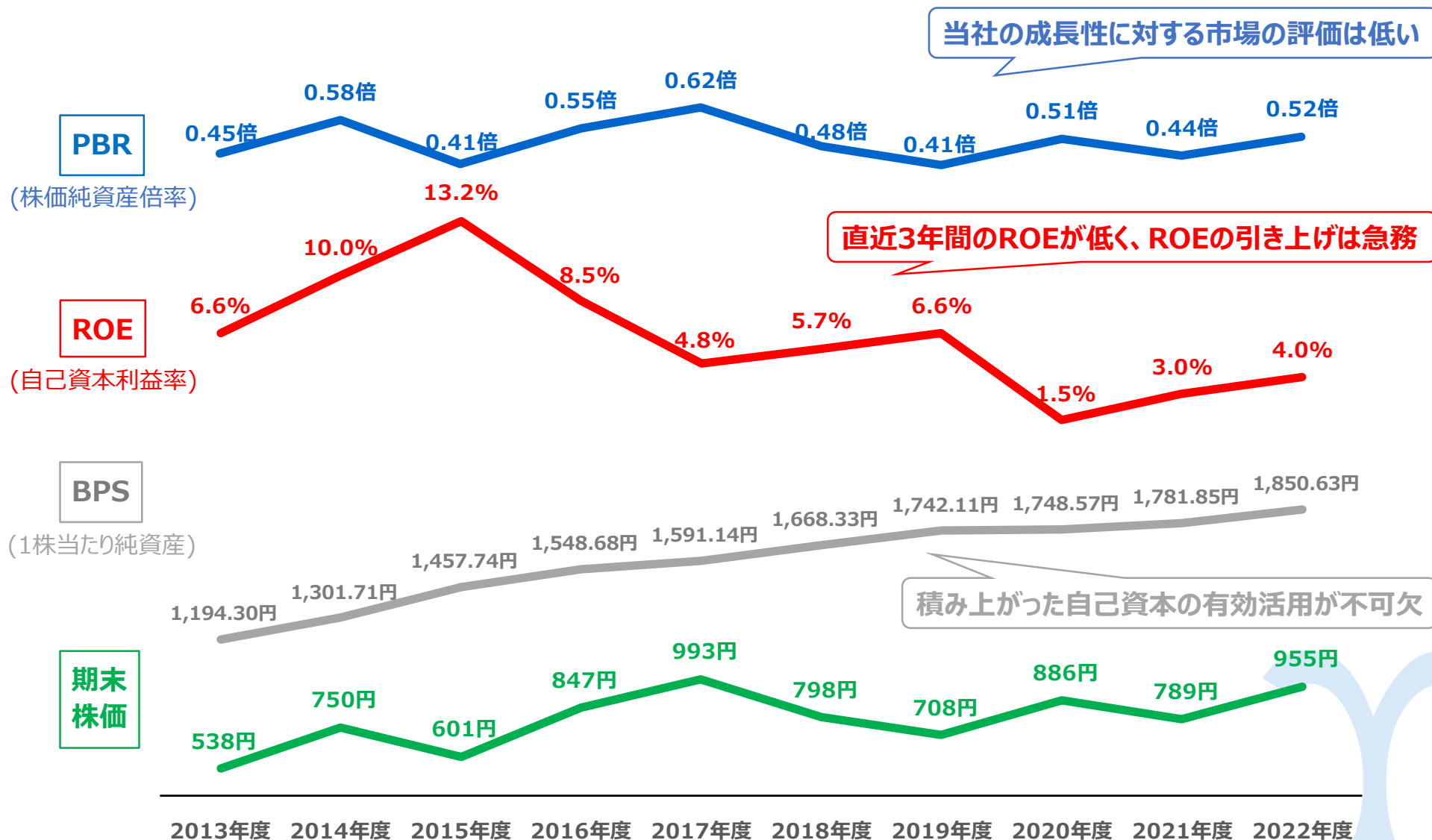
ROEの引き上げ = PBR向上の大前提



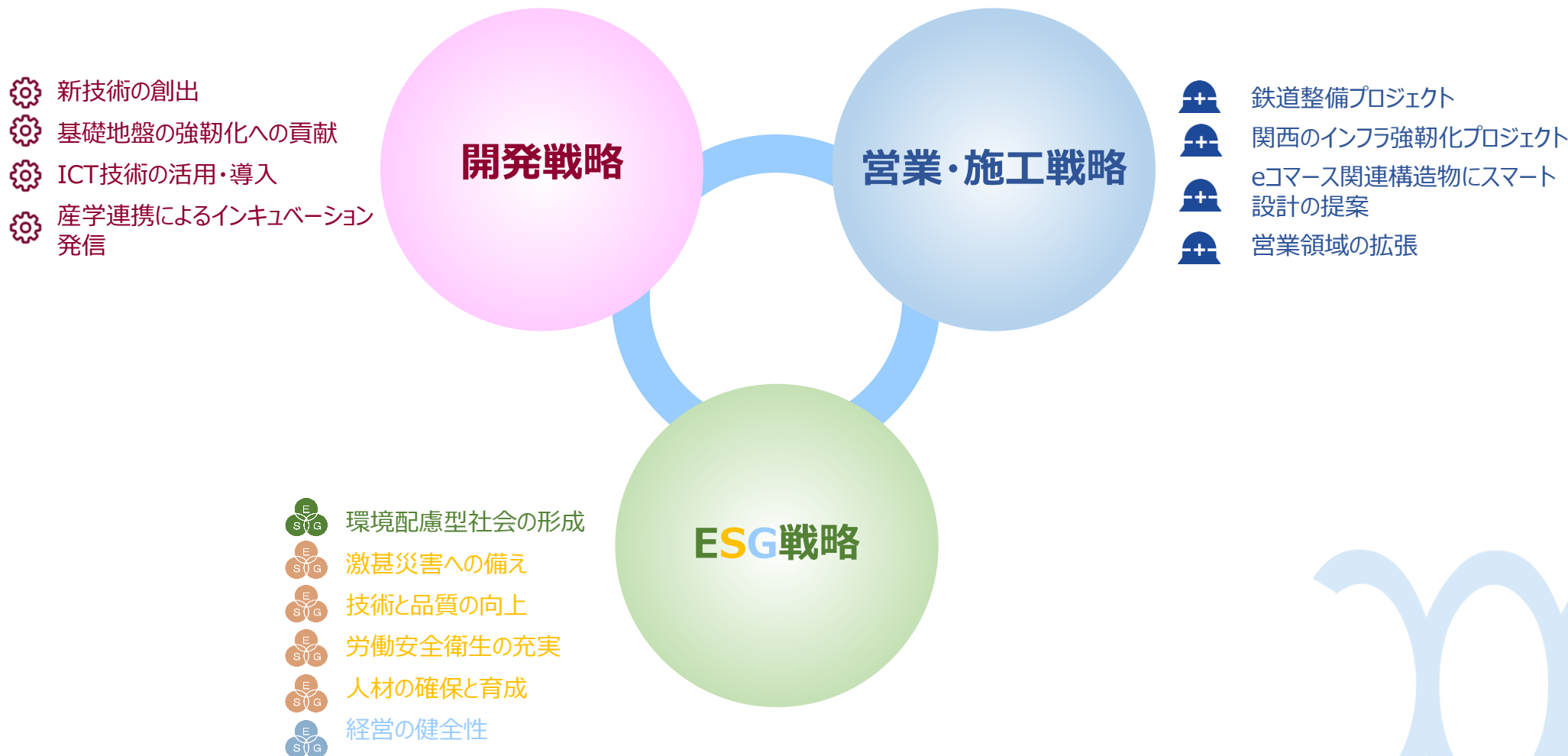
PBR1.0倍を目指すには、ROE8%以上にすることが必要がある

2.ROEの引き上げに向けて

(過去10年間の主な指標の推移から見える課題)



中期経営計画の3つの基本戦略の着実な遂行



将来のキャッシュを生み出す成長分野への投資拡大

- M & Aによる既存事業の拡大、新規事業への進出
- 気候変動に対応する環境関連の投資
- 人的資本経営のための投資



総資産回転率の向上

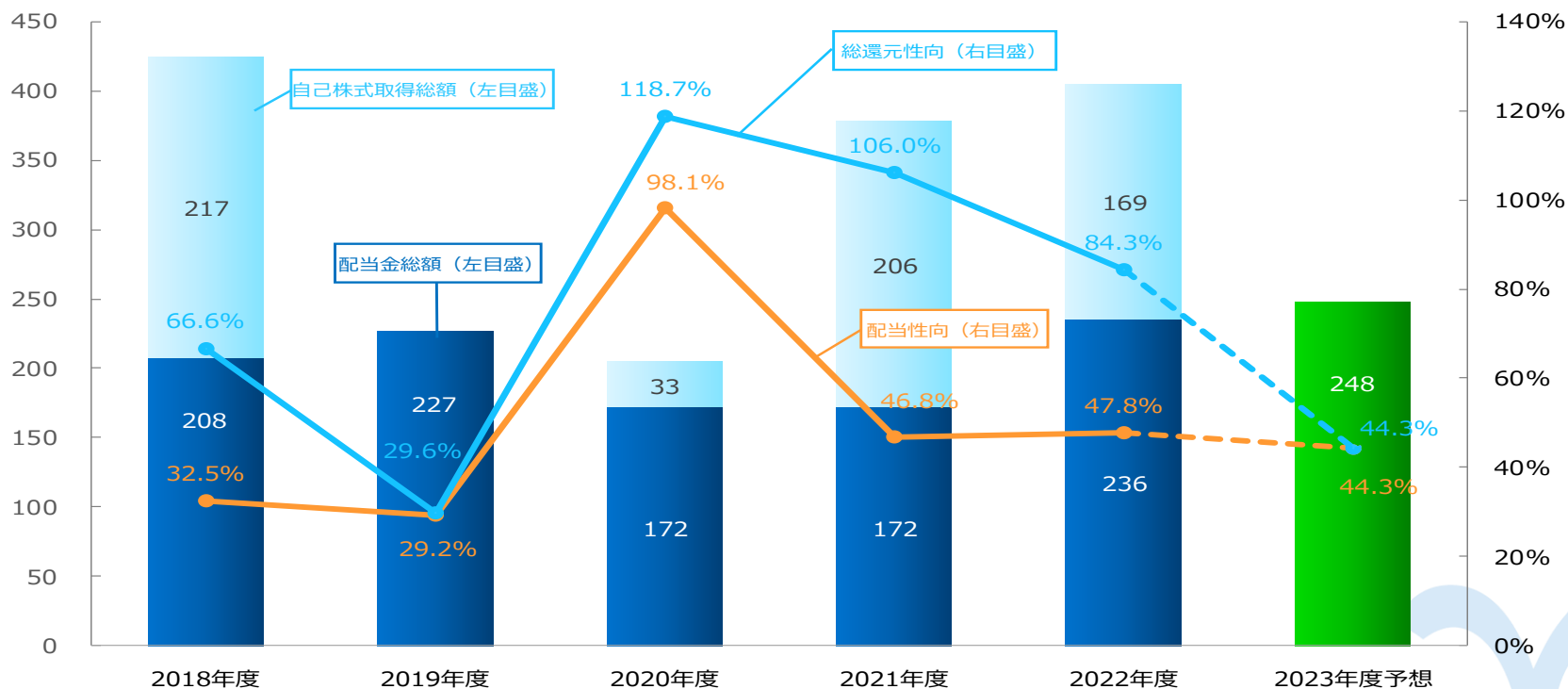
- 資産の見える化（グループ内情報共有、DX推進）
- 資産稼働率向上



3-4. ROE引き上げの施策（株主還元政策）

- 安定した配当
- 機動的な自己株式取得

(百万円)



1株当たり配当金

30円

33円

25円

25円

35円

38円

※ 総還元性向 = (配当金総額 + 自己株式取得総額) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益、配当性向 = 1株当たり配当金 ÷ 1株当たり当期純利益

次期中期経営計画中に目指すべき指標

売上高 : **240億円** 以上

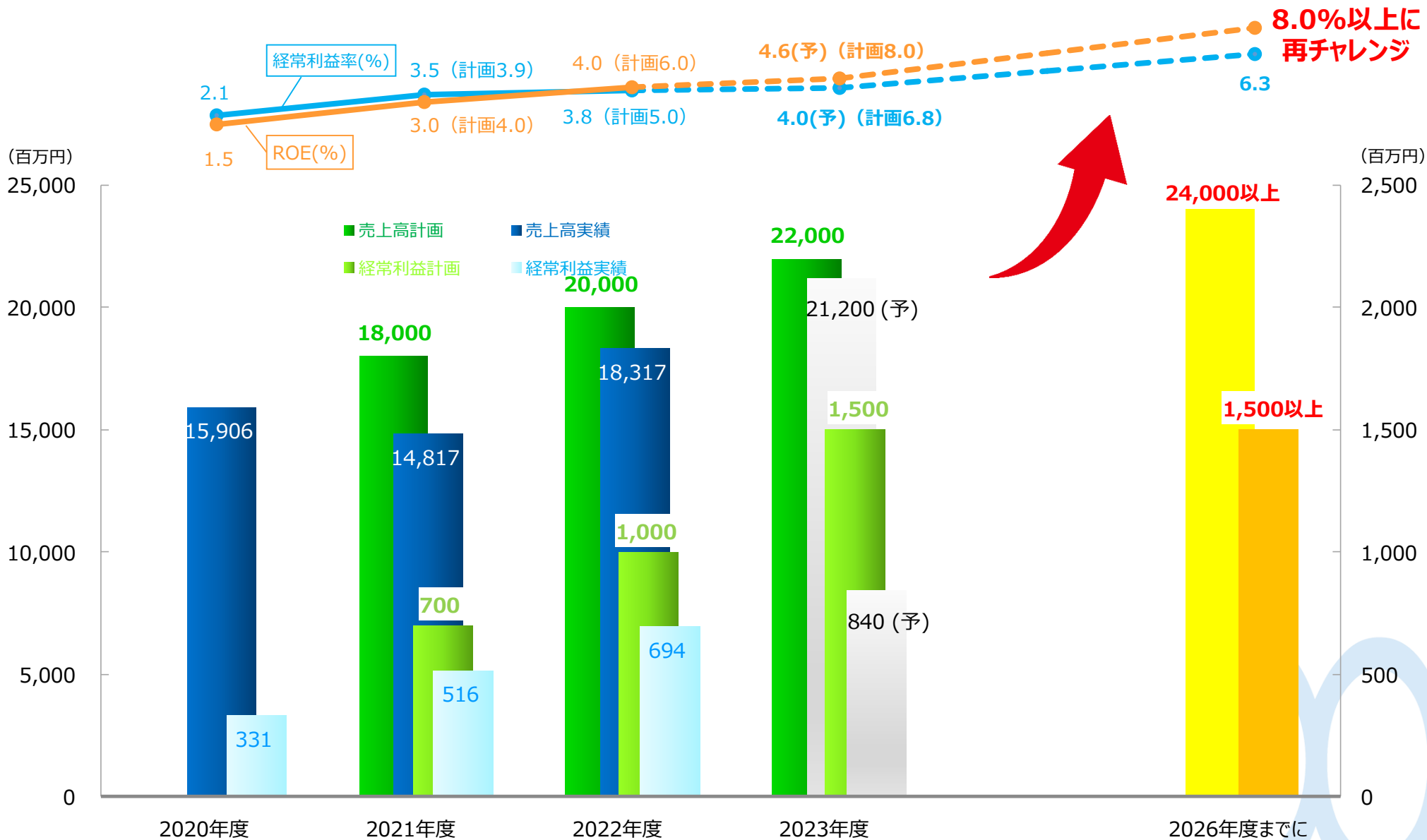
経常利益 : **15億円** 以上

ROE : **8%** 以上

に再チャレンジ

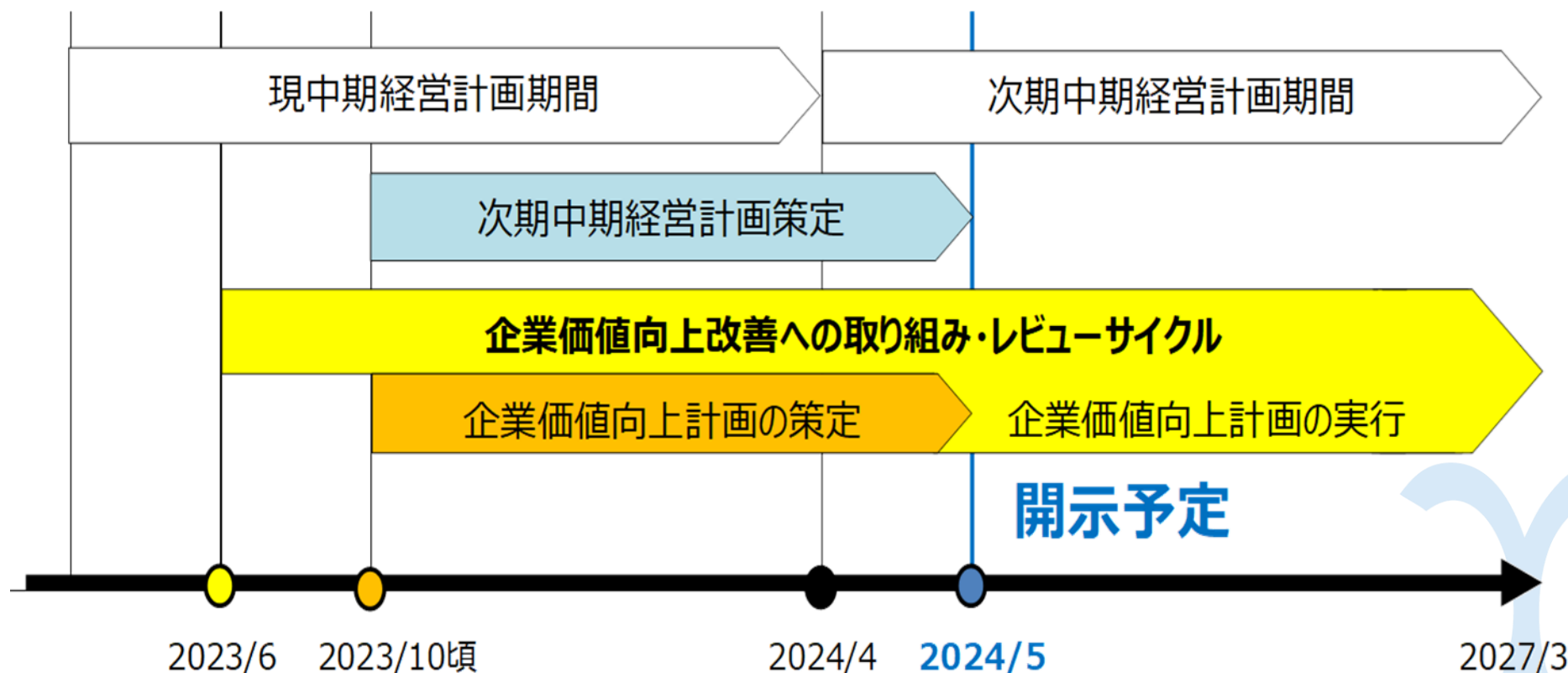
4-2. ROE引き上げと次期中期経営計画について

株式会社 テノックス



4-3. ROE引き上げと次期中期経営計画について 株式会社 テノックス

企業価値向上の実現に向けて、これまでの取り組みを総括し次期中期経営計画と併せて、課題解決策を織り込んだ企業価値向上計画を開示する



支えてくれる方々のご意見を直接お聞きし経営に反映、持続的な成長へ

機関投資家向け

実施項目	内容
決算説明会	年2回（2Qと4Q）実施。スピーカーは代表取締役社長。 2023年度よりリアル形式+オンラインのハイブリッド形式にて開催。
経営へのフィードバック	決算説明会のアンケートから得た機関投資家の声を経営に反映させることを目的に、取締役会にてフィードバックを実施。
個別（1on1）ミーティング実施、IRツールの作成、WEBサイト整備、英文開示の拡充	

個人投資家向け

実施項目	内容
会社説明会	2023年度は、7/29に札幌にて企業IR&個人投資家応援イベントを開催予定。スピーカーは代表取締役社長。毎年継続的な実施が定着。
経営へのフィードバック	会社説明会のアンケートから得た個人投資家の声を経営に反映させることを目的に、取締役会にてフィードバックを実施。
WEBサイトに「個人投資家のみなさまへ」設置、説明会資料掲載	

株主向け

実施項目	内容
株主通信の制作・発行	年2回（2Qと4Q）制作。 連載企画「What'sテノックス」「News&Topics」を掲載し、テノックスに親しみを感じていただくよう尽力。株主向けだがIRツールとしてHPに掲載。